

6/24

革

新

1969  
6-24

全国革新タレントの公議  
大阪市立大学支部 発行

昨日反安保大学立法紛争1万5千起

本日出入国管理法案紛争起!!

現在、佐藤政府は自衛隊の帝国主義的軍隊への再編強化をのぞき、「防衛二法」を国会で近日中に強行突決し引続いて、「健康増進法三年延長法案」を成立させ、その後に「大学治案立法」を今月下旬あるいは7月上旬に強行成立させてしまっている。

そのよう反緊迫した国会情勢をふまえ、我々は、昨日、6、9斗争に続いて工大全斗争、近大全斗争、市大全斗争、法斗争の学生と共に約二百五十名で「大学治案立法紛争」斗争を大手前公園で集会の後、自民党本部への果敢デモで斗い、中之島公園で反安保府民共斗主催の集会に合流した。

その日中で、我々は、阪大全斗争、学大全斗争、工大、近大、市大、反戦高協等と共に約八百名の学生独自集会をかりとり、更に、全大阪反戦青年斗争の斗争参加者との合同集会の後、6、9反安保、中継連連府民集会に合流し、参加者、学生約一万八千人の御座前デモを総発戦的に斗い抜いた。

我々の昨日の斗いは、4、28基地撤去、中継連連斗争以降の一連の斗争、とりわけ、社、共、総評の斗争のなかの「共斗」を拒否し、反戦青年委員会に結集する斗争参加者と全国の学生で教育の帝国主義的再編を粉砕し、大学の根本的変革を目指して斗かっている学生と共に平等等によつて斗かわれたら、斗争前争をふまえつつ、愛知外相とロジャー・スミット外相との会談でも明らかとなつたように「中継の破産も近々」により、更にはASPCAを適用しつつ、日本

帝国主義による帝政の再編強化の年、アジア侵略野望を基軸に、東南アジアへの独断的、新植民主義的侵襲を果そうとする佐藤内閣が、それに見合ったところの国内政治体制の強化、整備を自論するので今国会へ一連の反動諸立法(を)上呈している時、明確に安保推進府内閣佐藤内閣の斗争として位置付けられるだろう。

そして、社、共、総評が、当初7月10日を佐藤内閣打倒のストライキ斗争として提起していたにも拘わらず、戦術をレベル、ダウンし、しかも経済斗争へと帰曲しようとしている。このようなことは、動労参加者の反台斗争、そして、中継全軍の斗争への犯罪的重切り行為であり、我々は、断じてこのような行為を許すことはできない。戦場反戦の参加者のつき上げによる山積ストと連帯して斗かぬわけにはいかない。

この6、7月斗争の展開をかりとることにより10月佐藤内閣打倒の政治ゼネストをも展望しつつ、大衆的組織活動を徹底的に行なうなかから、佐藤内閣打倒、11月佐藤内閣阻止の暴力斗争部隊を創出しなければならぬだろう。それと共に、我々は、6月斗争を継承し「大学治案立法」紛争の対中央政府斗争として、文部省包囲デモを首都の学生と共に、関西からの大量の学生により、先頭につけて斗うだろう。

本日、5、5より大手前公園において、在日中国人、朝鮮人への政治的弾圧を

策し、民族主義、排外主義を煽る「出入国管理法案」紛争斗争が、在日外国人と斗争青年参加者、学生との連帯の下に斗かわれている。総ての教職員、院生、学生は参加せよ。

昨日反安保大学立法紛争1万5千起